

# 「めぐみさん生きています」

## オランダ人女性監督 記録映画の撮影開始



フェイレンさん

一九七七年十一月に新潟市で起きた横田めぐみさん拉致事件のドキュメンタリー形式の映画化を目指してオランダの女性監督が来日、めぐみさん

の両親ら家族と、その支援団体の取材と撮影を本格的にスタートさせた。

監督はミリアム・ファン・フェイレンさん（四六）。四年前、北朝鮮の金正日総書記が当時十三歳のめぐみさんら日本人拉致を認めたことをオランダの新聞で知り、関心

を抱くようになった。二年前には単身で、北朝鮮の貨客船「万景峰号」が入港した新潟西港を訪れるなど準備を進めてきた。

今回は撮影スタッフを引き連れ十月十九日から約一カ月間、日本に滞在する。川崎市在住のめぐみさんの父滋さん（七三、

母早紀江さん（七〇）と、弟で双子の拓也さん（三八）、哲也さん（三八）の救出活動の様子を撮影。新潟市では救う会新潟が三日に行った救出署名活動取材するなど精力的に動き回っている。

同市での撮影の合間に取材に応じたフェイレンさんは「家族の取材を通じて、私もめぐみさんが必ず生きていますという確信を持つようになった」



と強調。「めぐみさんと家族のきずなや支援者の再会を信じて疑わない」気持ちが見た人に伝わる

救う会新潟の救出署名活動取材する撮影スタッフ＝3日、新潟市の古町十字路